



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2020年11月8日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:6名

指導員:2名

テーマ 「紅葉を楽しもう！」

気温の低下とともに落葉樹の葉が色づき始めるので、今回のテーマは紅葉(黄葉)です。樹種による色彩の違い、色づく順番、葉のついている位置による色づき方の違いなどに注意しながら回りました。駐車場では鮮やかな朱色のアメリカハナノキと落ち着いた紅のハナミズキの色合いの違いを見比べました。どちらも早く紅葉する樹種です。コブシやエノキは黄色くなりかけたものとまだ緑のものがありました。ここでは黄葉の方が遅いようです。エノキは日当たりのよい枝から黄色くなっているように見受けられました。堤防道路沿いに植えられている桜は葉があれば紅葉しているはずなのですが、今年はほとんどが葉を落としていました。長かった梅雨とその後の高温で木が弱ってしまったためだろうと聞きました。

花は見られる種類が減ってしまいましたが、シロダモの雄株と雌株がそれぞれ花を付けていました。雌株には花と昨年受粉し、この時期に赤く色づき始めた実が花と同時に見られます。クスノキ科の樹木の多くは春に花をつけるのに、こんな晩秋に花をつけるものは少数派ですね。

10月の例会時にはオオブタクサが繁茂していた川原は草が刈られ、キツネの巣穴が4か所に出現していました。毎年公園管理者が埋めるのですが、キツネはこの場所がお気に入りのようです。

昆虫は草原を歩いても先月までよく飛び出したバッタの仲間の姿はありませんでしたが、キタキチョウ、モンキチョウなどの蝶がけっこう見られました。一方、この時期に見られるはずの赤トンボの仲間はアキアカネとマユタテアカネがそれぞれ1頭ずつ確認できただけでした。今年は特に赤トンボの仲間が少ないように感じられます。ただ、ほぼ毎日138タワーパークに来ているという人から、しばらく前に園内の池でキトンボのオスとメスを見たと言って撮った写真を見せてもらうことができました。愛知県では絶滅危惧Ⅰ類に指定されたなかなか見られない赤トンボの仲間です。

野鳥は堤防道路からオオタカ3羽が飛ぶところが見られました。また、アキニシの実を食べにアトリの群が来ていると聞いて探してみましたが、まだ葉がたくさん残っていて見つかりませんでした。来月になれば、冬鳥の種類も数も増えるうえ、葉も落ちて姿が見やすくなることと思います。(報告:齋竹)



(川原の草が刈られ出現したキツネの巣穴を観察中)

<その他観察できたもの>

花: セイタカアワダチソウ、コセンダングサ

虫: モンシロチョウ、キタテハ、ヤマトシジミ、ウラギンシジミ、ウラナミシジミ

鳥: アオジ、ジョウビタキ、ツグミ、キジバト、モズ、ヒヨドリ、ムクドリ、シジュウカラ、ハクセキレイ、カワラヒワ、スズメ、トビハシボソガラス、ハシブトガラス、カルガモ、ウグイス(声)



晩秋に咲くシロダモの花(雌花)



今年も出現したキツネの巣穴



何をしているのかモンキチョウ



数が減ったアキアカネ